

開講科目名 / Course	成人看護援助論 (回復期)	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	古賀 雄二	
担当教員名 / Instructor	佐藤 栄治、古賀 雄二、岩下 恵子、井上 陽士	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	急性・慢性疾患および外傷に伴う障害をもつ健康状態の人が、その人らしい生活の再構築に向けた個人の機能の最適化と障害の軽減をはかる能力を最大限に発揮することを支援するリハビリテーション看護および回復期の看護について学ぶことができる。	
到達目標	1. 回復過程における患者の身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。 2. 回復期におけるリハビリテーション看護の役割を説明できる。 3. 代表的な生活機能障害の特徴と援助について説明できる。 4. 代表的な生活機能障害の回復過程の移行に伴う問題と支援システムについて説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	01. 急性期から回復期への移行とリハビリテーション看護（生活の再構築に向けた看護の役割）、生活機能障害と回復期看護 排泄機能障害患者の特徴と看護（消化器外科系：胃がん） 02. 生活機能障害と回復期看護 呼吸器機能障害患者の特徴と看護（肺がん） 03. 生活機能障害と回復期看護 運動機能障害患者の特徴と看護（運動器系：外傷性疾患（骨折）/ 脊椎損傷疾患/股・膝関節疾患） 04. 生活機能障害と回復期看護 循環器機能障害患者の特徴と看護（循環器系：循環器疾患） 05. 生活機能障害と回復期看護 ボディイメージ障害を有する患者の特徴と看護（乳腺外科系：乳がん） 06. 生活機能障害と回復期看護 血液疾患・免疫疾患のある人の特徴と看護（血液・造血疾患、免疫疾患・膠原病） 07. 生活機能障害と回復期看護 脳・神経障害のある人の特徴と看護（脳神経系：脳卒中、高次機能障害） 08. 回復期の患者を支援する看護（事例を用いたグループワーク）、まとめ	
その他の授業の工夫	臨床事例から看護実践の意味付けや重要性の再認識につながるように工夫している。学生が相互に考えを共有し、コメントできる掲示板を提供し、意見交換の活性化を図る。	
時間外学修	事前学修：講義開始までに予習するテキストの該当箇所が教示される。講義冒頭に内容理解に関する小テストを行うので、準備をしておくこと（10h）。 事後学修：毎時、講義終了後に内容の理解の確認する課題小テストを課す（12h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（70%） 事前・事後課題(25%):第1回～第7回目 事前学習小テスト 1-2点/回(計11点)。第1回～第7回目 事後課題小テスト 2点/回(計14点) 授業への積極的な参加態度、グループワークへの貢献度(5%)	
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院） 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[4,8,10]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	必要に応じ、ハンドアウトを提示する。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	古賀雄二：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師 岩下恵子：病院の看護師 井上陽士：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	回復期における対象者への看護実践の経験を活かし、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた事例紹介を取り入れ講義を行う。	